

Association between the severity of chronic spontaneous urticaria and sleep-disordered breathing

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 永山, 貴紗子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002864

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2577 号

Association between the severity of chronic spontaneous urticaria and sleep-disordered breathing

特発性慢性蕁麻疹と睡眠関連呼吸障害の重症度の関連について

永山 貴紗子 (ながやま きさこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

睡眠関連呼吸障害 (Sleep-disordered breathing:SDB)は炎症を惹起することで様々な疾患に寄与することが知られている。また、慢性特発性蕁麻疹 (Chronic spontaneous urticaria:CSU)は抗原非依存的なマスト細胞の炎症で惹起されることが分かっている。CSUは一部で SDB との関連が報告されているが、いまだ不明な点も多いため、本研究を施行した。本研究は、2018年4月1日から10月31日までに国立病院機構相模原病院アレルギー科・皮膚科を受診した全 CSU 患者を対象にした。同意を得られた患者には自宅で検査施設外睡眠検査 (out-of-center sleep testing : OCST) を施行し、後日解析を行った。CSU の重症度評価は Urticaria activity score 7 (UAS7) を用い、Apnea-hypopnea index (AHI) との相関を調査した。また OCST にて AHI ≥ 5 であった患者に関してはガイドラインに応じて終夜ポリソムノグラフィーを行い、必要な場合には SDB に対して治療を開始した。SDB 治療が開始された患者は、治療開始 1 か月後に CSU の状態を UAS7 を用いて再評価した。全 37 人のうち、19 人が症状なし～軽症蕁麻疹 (UAS7 ≤ 15)、18 人が中等症以上の蕁麻疹 (UAS7 ≥ 16) だった。後者では BMI・AHI とともに有意に高値であった (BMI = 21.0 vs. 27.3 kg/m², $p = 0.02$; pAHI = 17.5 vs. 4.2, $p < 0.01$)。また中等症以上の SDB (pAHI ≥ 15) は、BMI で調整した後も、有意に中等症以上の蕁麻疹と関連していた (aOR = 21.7 [95% CI, 1.65-285])。SDB 治療を開始した 4 人に関しては、全員が 1 か月後に CSU の状態の改善を認めた ($p = 0.02$)。本研究では BMI とは無関係に、SDB と CSU の間に関連を認めた。SDB と CSU が関連する具体的な経路は不明だが、炎症や凝固など複数のメカニズムが相互に関連し、肥満も増悪因子となっている可能性があると考えられる。今後は症例数を増やし、更なる検討が必要と考えられる。